

第21回 「悩みの次元」上昇

当然ではあるが、ほとんどの患者は身体の事が心配で来院される。中には、その根本原因を探求すると、不調の原因になった“心の事件”が存在していることがある。きっかけとなる出来事がはっきりしている場合と、性格や心の傾向性など、人に指摘されないとピンとこない場合もある。身体の問題を心の問題に“すり替えられる”のを嫌う人もいるが、両面からアプローチした方が、遥かに治療率も高く、再発を防ぐことにもつながる。

これまで何度も指摘してきたが、人は自分の心の力で病気を創り出すことができる。例えば、責任感が強く、自分を責める傾向性がある人は、長期間その傾向性が続くと、自分を消滅させる方向、例えば癌などの病気が発生し進行することがある。「自分が悪い。自分は罪深い」という想念が、

具体的な肉体への表現手段として、自己の存在を消滅させる方向に向わせるからだ。これはサイエンスではないが、深いところで病人と付き合ってきた医師の眼から診ると、サイエンスを超えた「真理」である。

そのことに気付いてベクトルの方向を180度変えたことで、人生を謳歌している人も存在する。心の闇に光を照らすことで、見違えるように元気になった人たちを診ていて教わったことが2つある。1つは、彼らが自分自身の「人生の難問」を、自我力で解決するのをやめて、まるごと受け入れたということ。「それは自分に必要な課題であった」と見方を変えたのだ。もう1つは、「悩みの次元」を上昇させたということである。「以前は、自分のことばかりで悩んでいました。でも今はもっと難問で悩んでいます。どうすれば、世の中をもっと良く出来るか？どうすれば人のお役に立てるか？生きている間に出来ることは何か？だから今は、忙しくて自分の事を悩んでいる暇がないんです」。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。

米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15 きむら内科クリニック 麻生区 検索